

このたびはOSエンジンをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書と「保証書」をよくお読みのうえ正しくお使いください。とくに「安全上のご注意」は必ずお読みください。

安全上のご注意

- *ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- *この安全上の注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。常に安全を心がけエンジンの馬力を軽視しないこと。エンジンを安全に使用するのあなたは自身の責任です。いつも注意深く分別ある行動をして、楽しく使用してください。

■この注意事項は誤った取扱いをした時に、生じる危害や損害の程度を「警告」「注意」に区分しています。


警告


この表示の欄は、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。


注意

この表示の欄は、人が中程度または軽傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容です。

警告

 回転しているローターには絶対に触れないでください。ケガをする恐れがあります。

 ガソリンは有毒ですので目や口に入れないでください。幼児や子供の手の届かない冷暗所で保管してください。健康を害する恐れがあります。

 ガソリンを模型に搭載しても、搭載してなくても模型周辺は火気厳禁としてください。火災の恐れがあります。



ガソリンとオイルの混合は、屋外の通風のよい場所で行うと共に周囲に火気の無い場所で行ってください。火災の恐れがあります。



ガソリンの模型への給油はエンジンが十分に冷えてから行ってください。火災の恐れがあります。



運転中、運転直後のエンジン本体やサイレンサー、マニホールドに触れないでください。やけどの恐れがあります。

●ガソリンの使用、運搬及び保管に関しては当該国及び地域の法令を守ってください。法令違反の恐れがあります。日本国内の場合、消防法に適合した容器(ポリタンクでの携行&保管は違法です)で携行し、火気の無い冷暗所で保管してください。詳しくは、その地域の消防署に問合せてください。

●換気の悪い場所(密閉したガレージや室内等)で運転しないでください。有害な一酸化炭素等を排出しますので必ず戸外で運転してください。健康を害する恐れがあります。

●エンジン及び模型の運転を一人で行わないでください。ケガをする恐れがあります。

注意

●このエンジンは模型ヘリコプター用です。模型用以外に、使用しないでください。ケガや故障の原因となります。

●必ず消音効果の高いサイレンサーを使用してください。耳に損傷を受ける恐れがあります。

●エンジンは模型に搭載してから始動してください。搭載前に始動するとケガの恐れがあります。

●エンジンを使用するときは、子供や周囲の人々は安全のために、模型の周囲10メートル以上離してください。エンジン始動後は模型には、近付けないでください。ケガをする恐れがあります。

●模型にエンジンを取り付けるときは、模型の説明書の指示に従って、確実に取り付けてください。エンジンがはずれてケガをする恐れがあります。

●電源が入った状態での、プラグの点検時はプラグ本体、プラグキャップ、ハイテンションコードを手で持たないでください。感電の恐れがあります。

●洋服のヒラヒラしたような部分(シャツのそでとかネクタイ、スカーフ等)がローターの近くに来ないようにしてください。シャツのポケットから、鉛筆やねじまわし等がローターに落ちてこないように注意すること。ケガをする恐れがあります。

●エンジンを始動するときは、安全メガネや手袋を着用し、必ずスターターを使用してください。ケガをする恐れがあります。

●飛行前にスロットル・リンケージをチェックしてください。はずれるとケガをする恐れがあります。

●エンジンを始動するときは、ローターヘッドをしっかりとさえ、スターターで始動してください。ローターがまわってケガをする恐れがあります。

●エンジンの始動時はいきなり高速運転しないでください。ローターがまわってケガをする恐れがあります。

●ハイニードル及びスローニードル調整は、必ずエンジンを停止させてから行ってください。ケガをする恐れがあります。

●エンジンを始動させたままで、模型を持ち歩くときはローターをしっかりと固定し、回転部分に触れないようにしてください。ケガをする恐れがあります。

●エンジンを停止する時はイグナイターの電源を切ってください。もしくは、送信機側の操作でスロットルバルブを全閉にし、燃料供給を止めてください。ケガをする恐れがあります。

●エンジン停止直後、イグナイターの電源を切っても、クランクするとエンジンが始動することがあるのでクランクはしないでください。事故の原因となります。

●無線システムの電源が入っていない状態で、不意の始動した時エンジンを停止させる為に、イグニッションシステムの電源には外部から操作可能なスイッチを取付けてください。ケガをする恐れがあります。

●無線操作でエンジンを停止できるリンケージを行ってください。不意の始動にエンジンを止めることが出来ず、ケガをする恐れがあります。

1) このエンジンはガソリン専用です。

2サイクルガソリンエンジン用の市販オイルをレギュラーガソリンと25対1の比率で混合したものを使用して下さい。市販の2サイクルオイル混合済みガソリンも使用可能ですが、ニードルセットが基準位置から大きく外れる物は使用しないで下さい。調整が難しくなります。

2) キャブレターは工場出荷時に初期設定されています。

初めて運転する場合はこの状態から使用して下さい。工場出荷時の初期設定については説明書のニードルの初期開度を参照して下さい。

3) 機体や使用するサイレンサーの種類によってホバリング時のスロットル開度が変わります。

スロットル全閉から20~40%開いた位置でホバリングが可能となります。送信機のスロットルスティック位置が中立付近でホバリングを行なう場合は必ず送信機のスロットルカーブを作成して下さい。詳しくは図2を参照して下さい。

4) ガソリンエンジンは燃費が非常に良くフライト時間が長くなります。

15分以上の連続飛行を行なう場合は受信機電源の容量には十分注意して下さい。バッテリー容量は少なくとも1500mA以上の物の使用をお勧めします。又、こまめに残量を測定しながら充電を行なうことが重要です。

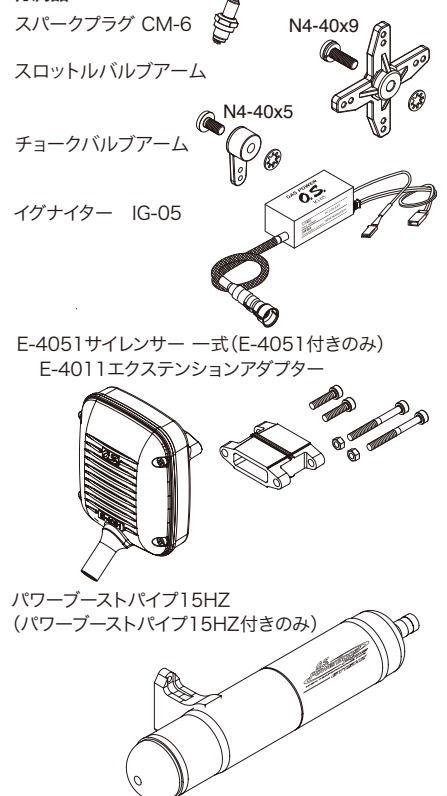
5) 送受信機は2.4GHz仕様製品をお勧めします。

ガソリンエンジンはスパークプラグを使用する為イグナイターからノイズを発生させることがあります。72MHzや40MHzの受信機を使用されると、このノイズの影響で、状況により電波障害が起こり、操縦不能になる恐れがあります。ノイズの影響を受けにくい2.4GHz帯の送受信機の使用をお勧めします。

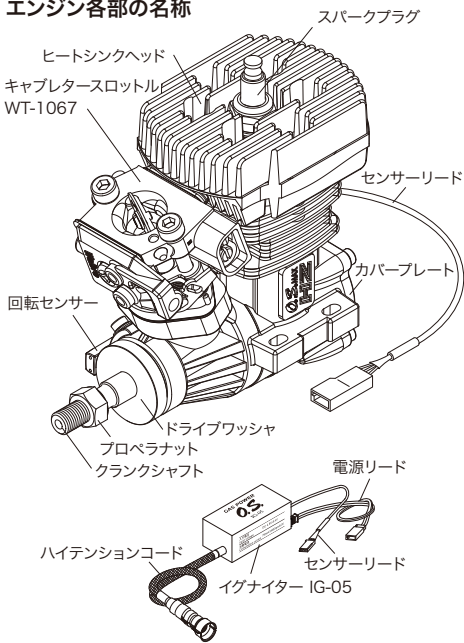
製品について

91クラス模型ヘリコプター専用開発された2サイクル15ccガソリンエンジンです。従来のグローエンジンと異なりスパークプラグを用いたイグナイター点火システムを搭載しており混合ガソリン燃料にて運転します。キャブレターは専用開発キャブレターWT-1067を搭載し全域で安定した運転を行います。

付属品

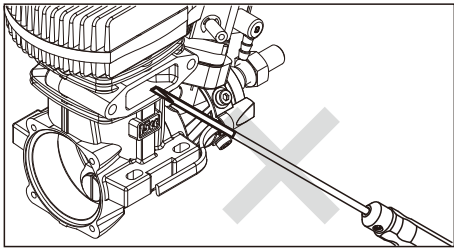


エンジン各部の名称



クーリングファン、クラッチ取付時の注意

エンジンにクーリングファンやクラッチを取り付ける際に、クランクケースのマウント部を万力(バイス)等で挟まないでください。ケースが歪んでエンジンを破損します。またピストンを固定するために排気口からドライバー等を差し込まないでください。ピストン、シリンダーライナー上端部を損傷します。取り付けの際には当社より発売されている、クランクシャフトクランプ91/105/GT15(No.71530530)を使用してください。



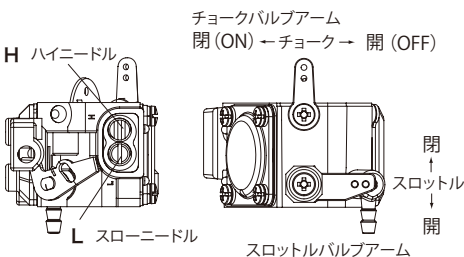
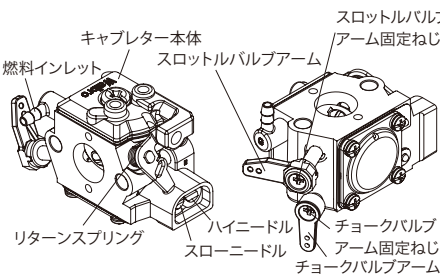
エンジンの取付け

機体の説明書を参考にエンジンに冷却ファンやクラッチを取り付けた後エンジンを機体へ搭載します。

この時キャブレター各部が機体の冷却ファンダクトに干渉しないよう若干の加工が必要になります。実際に搭載を行ないながら干渉しないよう確認を行なって下さい。

キャブレタースロットル 各部の名称

スロットルバルブアーム及びチョークバルブアームはエンジンを機体に搭載した後、専用固定ネジを用いて取り付けて下さい。スロットルバルブアームは長い方の固定ネジと付属の菊座ワッシャーを用いて確実に取り付けて下さい。チョークバルブアームは手動ですので指で動かせる向きに取り付けます。



ニードルの初期開度

キャブレターには次の2つの調整用ニードルがあります。

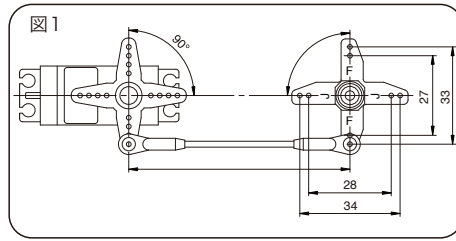
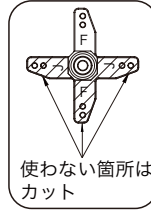
L: スローニードル 全開から1回転 +1/4回転開き
アイドリングからホバリング域の調整

H: ハイニードル 全開から1.5回転 +1/4回転開き
ホバリング域から上空フライトまでを調整

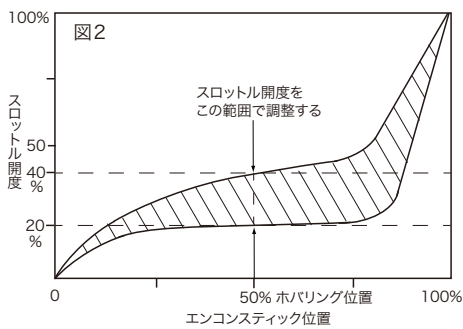
ニードルの初期開度はあくまでも基準位置であり最良の状態ではありません。調整の手順に従って調整を行なって下さい。

キャブレターリンケージ

まず使用するサーボの種類によってアームのF側かJ側かを選択します。サーボホーンの使用する穴に合わせて直角になるよう穴位置を選択して下さい、使用しないアーム部はニッパーなどでカットして下さい。



スロットルバルブの動作方向を確認してからリンケージを行ないます。全開から全開までスロットルバルブは75度動きます。スロットルカット状態ではスロットルバルブが必ず全開になるようにセットして下さい。エンジンが始動するアイドリングの開度は全開の位置から約3~4°開いたところになります。エンジン始動時のスロットル開度を高く設定すると始動した途端にクラッチがつかがりメインローターが回り始めるなど危険な状態が起こります。スタート時には十分注意して下さい。パワーブーストバイブGT15HZを使用する場合、ホバリングのスロットル開度は全動作域の20%程度になるように差動を付けてリンケージをセットして下さい。(E-4051サイレンサーを使用する場合ホバリングのスロットル開度は40%程度になります。)これは、キャブレターの構造上スロットル開度が小さくても実際の開口面積が大きくなってしまふことに起因します。



イグナイター

スパークプラグを点火する為の装置です。プラグキャップはプラグに確実に装着してください。

■ 主な仕様

- 消費電流は750mA / 14,000rpm / 6.0Vです。バッテリー容量が1500mAh以上の電源を使用してください。
- このイグナイターには電源電圧は4.8~8.4V(定格)のバッテリー(別売り)が必要です。Ni-Cd.Ni-MH4~6セル、Li-Po.Li-Fe2セルが適応します。

■ 搭載について

- イグナイター本体には十分な防振対策を行なって搭載して下さい。
- イグナイター本体のセンサーリード(白、赤、黒の3本線)と、エンジンのセンサーリードをコネクターにより接続してください。
- イグナイター本体の電源リード(赤、黒の2本線)と、イグナイター用電源をコネクターにより接続してください。この時ON/OFFスイッチを中間に接続すると便利です。
- 運転中イグナイター本体は高温になりますので通気性の良い場所を選んで搭載して下さい。
- ハイテンションコードはフレーム等に保持して搭載して下さい。振動等による破損を防ぎます。

燃料

燃料に使うガソリンはレギュラーガソリンを使用して下さい。ハイオクタンガソリンは必要ありません。一般に2サイクルガソリン混合用として売られているオイルをガソリン対オイルの比率を25対1になる様に混合して使用して下さい。具体的にはガソリン1000ccに対してオイルを40cc混ぜる計算になります。

当社では以下に示すオイルの使用を推奨しています。ニードルセットが基準位置から大幅に変えることなく飛行が可能です。

- ゼノア純正 FC級
- KLOTZ ModeLube
- AMSOIL Saber

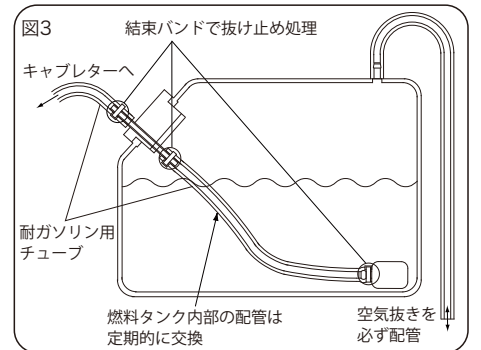
ガソリンは引火性が高く非常に危険です。火の気がある場所では混合作業等を行なわないよう充分注意して下さい。また燃料をタンクに給油する時は燃料缶の中にフィルターを入れておきゴミの進入を防いで下さい。燃料缶の中にはO.S.製スーパーフィルターL(72403050)の使用をお奨めします。

燃料タンク

燃料タンクはガソリンに対応している物を使用して下さい。グロー用に設計されたタンクでは長い時間使用すると変形が起こる場合があります。特に内部に使用するチューブはガソリンに対応した物が必要です。ニトリルゴム製もしくはフッ素ゴム製で内径φ2.5~φ3.0mm程度の物がよいでしょう。ヘリコプターは姿勢変化が激しいので柔軟性の高いチューブとある程度重いウエイトの使用をお奨めします。タンク内に使用するおもりはO.S.製パブレスウエイトS(71531010)がよいでしょう。マフラープレッシャーは使用しませんのでタンク側のプレッシャー取り入れ口は大気開放状態になります。また上空フライトを行なう場合などプレッシャー取り入れ口よりガソリンがもれますので図3を参考に空気抜き用チューブを取り付けて下さい。

配管

タンクからキャブレターニップルへ配管を行います。配管に使用するチューブはガソリンに対応した物が必要です。タイゴン® F-4040A製(黄色の物)もしくはニトリルゴム製もしくはフッ素ゴム製で内径φ3mm程度の物がよいでしょう。タンクからキャブレターの配管の間にガソリン用フィルターを取り付けて下さい(フィルターの目詰まり、配管不備によるトラブルには十分注意して下さい)。

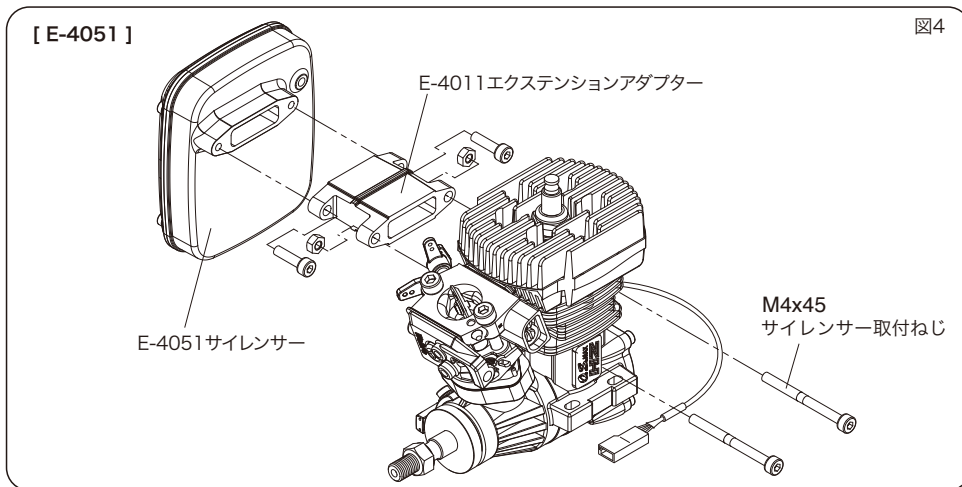


サイレンサー

GT15HZ用には専用に開発された以下の2種類のサイレンサーを用意しています。フライト内容に合わせてお選び下さい。

[パワーブーストパイプ GT15HZ]

GT15HZ専用に開発されたサイレンサーです。ホバリング域と上空フライト時の両方の回転域で非常に安定した出力特性を発揮します。取り扱いにはパワーブーストパイプGT15HZに付属の取り扱い説明書を参考して下さい。



始動

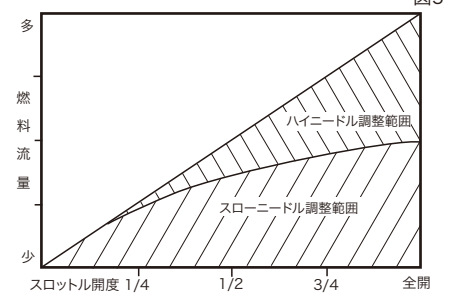
以下の手順に従ってエンジンを始動します。

- 1) 混合済みガソリンを機体のタンクに給油します。
- 2) 送受信機のスイッチをONにし各サーボの動作確認を行います。
- 3) スロットル開度がアイドリング位置になっていることを再度確認します。
- 4) スターターを回転させエンジンを数秒回します、回転方向はエンジンに向かい合って左回転が正転です。
- 5) タンクから燃料がキャブレターに送り込まれているか確認します。
- 6) スターターを回し続けても燃料が送り込まれない場合に限り、チョークバルブレバーをチョークON側へ倒します。
- 7) チョークONの状態でも再びスターターを5秒程度回転させ、燃料がキャブレターに送り込まれたことを確認します。オーバーチョークになるので10秒以上は回さないで下さい。
- 8) スターターを止めてチョークバルブレバーをOFF側へ倒します。
- 9) イグナイターの電源を接続します。(ON/OFFスイッチを付けている場合はONにします)最後にスターターを使ってエンジンを始動します。

[E-4051]

軽量コンパクトに設計されたアルミダイカスト製サイレンサーです。ホバリング回転域で非常に静かになるよう設計されており、搭載スペースが限られるスケールタイプのヘリやホバリングトレーニング等に最適です。使用する機体のフレーム形状次第で付属の延長アダプターを使う場合があります。図4を参考に取り付けを行なって下さい。

- 4) 各ニードルが及ぼす調整の範囲は下の図のようになります。



図からも読み取れるようにスローニードルは全開域にも影響を及ぼしハイニードルはスロットル開度1/4程度の低い位置にも影響を与えることが分かります。ガソリンエンジンのキャブレターは全般にスローとハイの交差範囲が広くホバリング領域からはどちらのニードルも影響することをご理解下さい。

- 5) ブレークインが終了すれば上空飛行に入るわけですが、上空飛行を行なう前にハイニードルの変化を体感してみます。現時点ではハイニードルは基準位置のままですが、左に5度程度開いてホバリングを行なって下さい。ハイニードルはホバリングから上のスロットル開度で影響しますので、ホバリングにも変化が出ると予測されます。
- 6) フライトモードを切り替えて上空飛行を行なって下さい。まずエンジンの運転状態を良く観察します。スロットル全開域でエンストが起こったり、ピッチ角度が浅い位置で過回転を起こすのであれば、ハイニードルが薄い症状です。ガソリンエンジンはニードルセットが薄いといわゆる息継ぎやエンストを起こす場合があるのでハイニードルの調整は少し濃い状態を確認した上で徐々に絞っていくということをお奨めします。
- 7) いくらニードルのセットが濃い目の状態であってもメインローターの最大ピッチ角がきつ過ぎますとエンジンに無理な力が掛かり焼きつきによる破損が起こる場合があります。また、ピッチ角が浅い状態でエンジンが過回転を起こすとエンジン温度が上昇しオーバーヒートを起こします。上空のメインローターの回転数は1,750rpm以下となるようにセットして下さい。スロットルとピッチの関係は非常に重要であることをご理解下さい。

キャブレター調整

エンジン始動後は以下の手順に従って調整を行なって下さい。

- 1) アイドリング状態が安定していればスロットルを徐々に上げ離陸させます。正常に離陸が行なえれば問題はありませんが、症状によって以下の調整を行ないます。
 - A) 濁った音を発しながらパワーが無くエンジン回転が上がりにくい場合
スローニードルを右に5度程度回し再度離陸を試みます。
この時のスローニードル調整に対する変化を確認し調整を繰り返します。
 - B) エンジン回転が上がらずに息継ぎやエンストしてしまう場合
燃料が送り込まれにくい(薄い)症状です。
スローニードルを左に10度程度回し燃料が送り込まれるように調整を繰り返します。
- 2) ホバリングが行なえる状態になれば同時にその時のメインローター回転数を測定します。
 - A) メインローター回転数が1,500rpm以上と高くなってしまふ場合
ホバリング時のエンジン回転数が下がるようにスロットルカーブを下げる(図2リンクページの項を参考にスロットルカーブを調整して下さい。)
スローニードルを左に3度程度回しホバリング付近の燃調を濃くする。
 - B) メインローター回転数が低くホバリング中に高度が下がり始める場合
スローニードルが少し濃い場合に出易い症状です。
スローニードルを3度程度絞って様子を見て下さい。
- 3) 安定したホバリングが確認できれば、ブレークインを開始します。

実際に使用する混合比 25対1 の燃料を使用し2L~3Lのブレークインを行います。
ガソリンエンジンは燃費が良いので受信機電源の残量を確認しながら気長にブレークインを行ないます。
ガソリンエンジンは正常な運転状態であってもエンジンの表面温度が130°C付近まで到達します。エンジンやサイレンサーに不用意にさわらないよう注意して下さい。

飛行後のメンテナンス

- 一日のフライトが終了したらまず燃料タンクに残った燃料を抜いて下さい。ガソリンは引火性が高く危険ですのでタンク内に残さないよう注意して下さい。
- 運転後のエンジンやキャブレターには多少の燃料が残っておりこれを放置しますとキャブレターの内部パーツを痛める可能性があります。タンクの燃料を抜き取った後にエンジンを再スタートさせてキャブレター内部の燃料を消費しておいた方がよいでしょう。
- イグナイターや受信機電源に使用している電源を機体から取り外して保管しておきましょう。電源にLi-Poバッテリー等を使用している場合思わぬ事故が発生し火災が起こる可能性があります。

アフターサービス

エンジンの修理について

- よく洗浄してエンジン本体のみを「OSエンジンサービス係」までお送りください。(エンジン以外のものが付いていたり汚れがひどいと分解や洗浄に時間がかかり、修理代が高くなります)この時、故障時の状態及び修理希望事項を必ずお書き添えください。
- 原則として当社到着後10日以内で修理完了致します。
- 修理品のお支払いについては、コレクトサービス(宅急便代金着払いシステム)により発送させていただきますので、修理品送付時、現金等を同封しないようお願いいたします。

お客様のパーツ直接購入について

- 交換部品については販売店、もしくは当社から直接購入することができます。
また、送料(荷造手数料込)及び代金引換の場合、代引手数料が必要となりますのでご了承ください。

当製品のご使用上の注意

1) 当社専用のサイレンサーをご使用ください。

この製品は、必ずO.S.純正ガソリンエンジン専用設計のパワーブーストパイプGT15HZまたはE-4051サイレンサーをご使用下さい。上記以外のパワーアップを目的としたチューンド効果の大きい(当社製グローエンジン用パワーブーストパイプを含む)サイレンサーを使用するとエンジン温度が適正範囲を超え、これが原因でエンジン破損につながります。これらのサイレンサーを使用してエンジンが破損した場合、保証の対象外となりますので、十分ご注意下さい。

2) 混合オイルご使用上のご注意

オイルにはゼノア純正2サイクルエンジンオイルFC級、クロツ社製模型用R/C ModeLube、又はAMSOIL Saber等の一般的な2サイクルエンジン用オイルの使用を強く推奨いたします。市販の2サイクルオイル混合済みガソリンも使用可能ですが、ニードルセットが基準位置から大きく外れる物は使用しないで下さい。調整が難しくなります。

ヘリ用ガソリンエンジンGT15HZ ニードル調整の手順

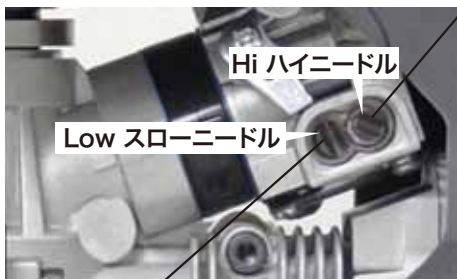
既存91サイズヘリコプターにジャストフィット、優れた燃費性能を誇る、15ccヘリコプター用ガソリンエンジンGT15HZ。エンジン性能を100%発揮させるためのニードル調整の手順を解説いたします。

ガソリンエンジンのニードルはグローエンジンより調整幅が狭く敏感に反応します。以下の手順書を参考に調整を行って下さい。

1) GT15HZのニードルはLow及びHiの2系統!!

機体に搭載した状態で向かって左側にあるのがLow スローニードル、右側にあるのがHi ハイニードルです。

Hi ハイニードル：スロットル開度がホバリング付近から上空フライトまでを調整



Low スローニードル：アイドリングからホバリング付近までを調整(上空フライトにも少し影響します)

2) ニードルの基準開度!!

Low スローニードル: 全閉から 1回転 + 1/4回転
Hi ハイニードル: 全閉から 1.5回転 + 1/4回転

注): この基準開度が重要です、調整の前にニードルが基準開度になっているか再度確認して下さい。

3) エンジンを始動させましょう!!

説明書の手順に従ってエンジンを始動します。チョーク機構を使って燃料を送り込むと始動が容易(送り込み過ぎはオーバーチョークになるので注意!)です。ガソリンエンジンは気温が低い冬の時期は始動直後の暖気運転が必要です。地上でメインローターがゆっくり回転する程度の回転数で必ず1~2分程度暖機運転を行って下さい。

4) 暖気運転後、いよいよ離陸させましょう!!

エンジン回転が上昇し離陸体制に入ります。あなたのエンジンはどんな状態? 以下は調整の具体例です。症状によってニードル調整を行って下さい。

事例1) *Low スローニードルが濃い状態*

症状 離陸しようとスロットルを開けても白い排気ガスが多量に出てエンジン回転が上昇しない。

対策 Low スローニードルを右に1分(時計の針をイメージ!) 回し再離陸させます。このとき一回に調整するニードル角度は必ず1分に留めて下さい。

*現時点ではHi ハイニードルはさわってはいけません!!
*まずはLow スローニードルを決めるのが、調整のコツです!



次に、まだ離陸出来ない場合。

対策 → 離陸が行えるようになるまで Lowスローニードルを1分ずつ絞ります。

*離陸が出来る様になればOKです、それ以上Low スローニードルを絞る必要はありません。

Lowニードルの絞り過ぎはエンジンが過回転となります、注意して下さい。

事例2) *Low スローニードルが薄い状態*

症状 エンジン回転が非常に高い状態(ローター回転1500rpm以上)で離陸したり、離陸中にエンジンが息継ぎを起こしたりします。

対策 Low スローニードルを左に5分(時計の針をイメージ!) 回し再離陸させます。



エンジン回転が依然として高い場合。

対策 → Low スローニードルを更に左に3~5分回し再離陸させます。調整を繰り返しながらエンジンが過回転を起こさない状態にします。

*説明書に例がありますようにスロットルカーブを低く下げてもっとすることでエンジンの過回転を防ぐことが可能です。ぜひ試してみてください。

5) ブレークインを始めましょう! ガソリンエンジンは必ず必要。

ホバリング時のローター回転数が1400rpm~1500rpm付近で落ち着いたらブレークインの開始です。根気良く約2リッターの燃料を消費して下さい。
*ガソリンエンジンはブレークインを進めると徐々に軽快に回り始めます。

6) ブレークイン完了で上空フライトへGO!!

ホバリング時のアイドルUPスイッチを入れて上空飛行へ移ります。以下は調整の具体例です。症状によってHi ハイニードルの調整を行って下さい。

事例1) *Hi ハイニードルが濃い状態*

症状 アイドルUPを入れてスロットルを全開にすると、エンジン回転が濁った状態に変化しパワーが出ない。

対策 重要): 上記の様な症状が出たときはHi ハイニードルを右に回しますが、Hi ニードルを一回に動かす量は1分以内にしてください。Hi ハイニードルはLowニードルよりも反応が敏感です。



Hi ハイニードルを絞る量は最大でも5分が限度です。

ガソリンエンジンは高温で運転するので、絞り過ぎは焼き付を起こす原因になります。

事例2) *Hi ハイニードルが薄い状態*

症状 アイドルUPを入れてスロットルを全開にすると息継ぎやエンストの症状がでる。

対策 Hi ニードルを左へ 5分~10分回し再度様子を見て下さい。10分左へ回すと開き過ぎの場合もありますが、濃い状態は問題になりませんのでしばらく濃い状態で運転して下さい。

Hi ハイニードルは変化が敏感に出ますので、気長に根気良く見極めましょう!

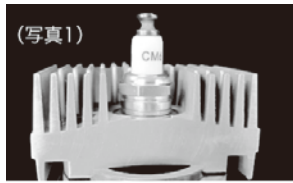
7) ガソリンエンジンのニードル調整は慎重に!

ガソリンエンジンは燃費が良い為、運転中に流れるガソリンの量が非常に微量です。この為ニードル調整が敏感になりますが、一度決まると安定するという特性もあります。安易にニードルを回しすぎることなく根気良く調整を行ってください。

GT15HZ プラグキャップの正しい取り付け方法とその注意点

ヘリコプター用ガソリンエンジンGT15HZには点火用イグナイターが装備されています。正確にイグニッションプラグにプラグコードを装着しなければ運転に支障が出る場合があります。下記説明を参考にして正確に取り付けてください。

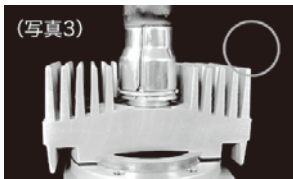
(写真は一部説明用にカットされています。)



プラグを取り付けた状態 (写真1)

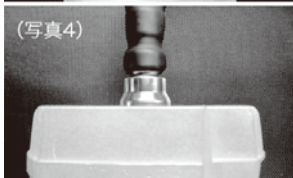


プラグの先端部やプラグキャップの内側にシリコングリスを塗るとプラグキャップの取り付けが容易になります (写真2)

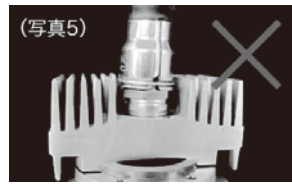


正しい取り付け状態 (写真3)

プラグキャップは運転中の抜け落ちを防止する為取り付けが非常に硬く設計されています。プラグの六角形部が完全に隠れて「カチッ」と音が鳴るまでプラグキャップを確実に押し込みます。

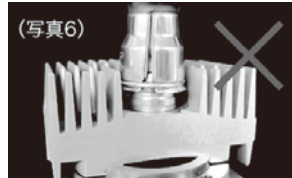


取り付けが確実に行なわれると写真4の様にプラグキャップ横のO.S.刻印がフィンに隠れて見えなくなります。



不完全な取り付け状態1 (写真5)
(ノイズ発生、誤動作の主な原因)

プラグキャップとプラグの隙間にスパークが発生し、そのノイズが放出されジャイロなどが誤動作を起こす原因となり危険です。プラグキャップが脱落する可能性も有ります。



不完全な取り付け状態2 (写真6)

プラグの六角形部の途中でプラグキャップが止まった非常に不安定な状態。この状態でもノイズが放出され誤動作発生の原因となり危険です。また、この状態でも脱落の可能性が有ります。



プラグキャップを取り外す場合の注意 (写真7)

プラグキャップを取り外す場合、写真7の様にワイヤー部分を引っ張ると内部で断線が起り故障します。プラグキャップの取り付け取り外しは必ずプラグキャップ本体を持ちケガ等しないよう注意して行なって下さい。

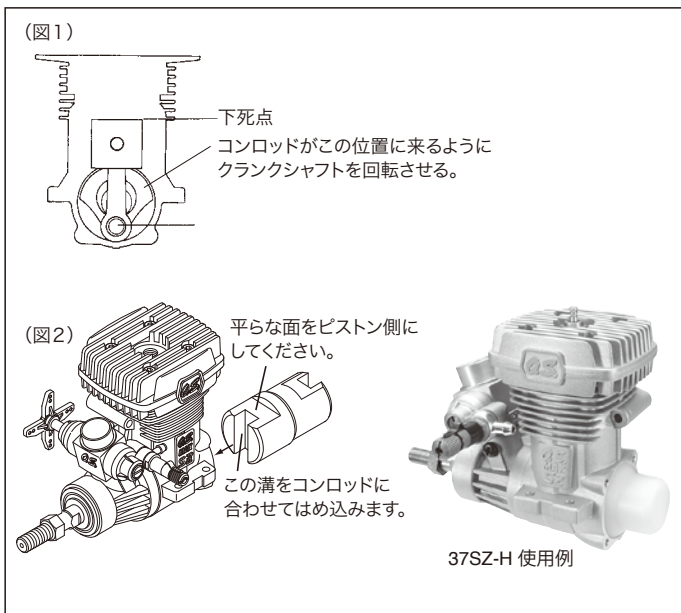
クーリングファンの取付にはクランクシャフト・クランプが必要です!!

ヘリコプター用エンジンのクーリングファン等をクランクシャフトへ取り付ける場合、クランクシャフトを固定し、共回りを防ぎ確実にジョイントやパイロットシャフトを締め付けることができます。エンジニアリングプラスチック(ポリアセタール樹脂)製のため耐油性、耐久性が高くしかも、エンジンのクランクケースやコンロッド、クランクシャフトに傷をつけることもありません。

カバープレートの取り付け、取り外しを行う時はピストンが上死点にある状態で行ってください。機種によってはピストンとカバープレートが接触し破損します。

使用方法

- エンジン本体のカバープレートを取り外し、ピストンが下死点に来るようにクランクシャフトを回転させます。(図1)
- 次にクランクシャフトクランプの溝をコンロッドに合わせて、はめ込んだ状態でクーリングファンを締め付けます。(図2)
- クーリングファンの形状は機体によって異なります。ヘリコプターの取扱説明書も合わせてお読みください。



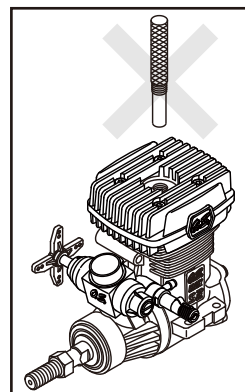
クーリングファン、クラッチ取付時の注意



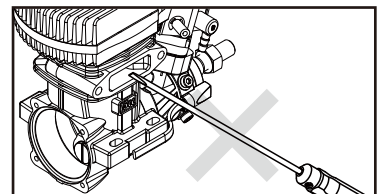
プラグ穴や排気口から物を入れ、ピストンをロックさせてクーリングファン等を取り付けるとエンジンを破損させる恐れがあります。

エンジンにクーリングファンやクラッチを取り付ける際に、ピストンを固定するタイプのロックング治具は使用しないでください。(図3)
また排気口からドライバー等を差し込まないでください。ピストン、シリンダーライナー上端部を損傷します。(図4)

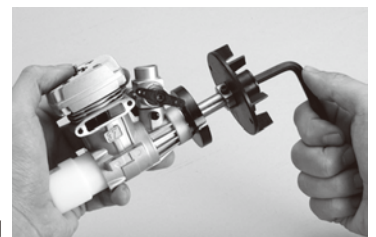
71530510(91専用)、71530520(91/105専用)のクランクシャフトクランプはGT15HZには使用出来ません。無理に使用するとピストンのスカート部分を破損します。



(図3)



(図4)



37SZ-H 使用例